

# 令和2年度 大田区立大森第三中学校 自己評価 報告書

## ○ 本校の概要

◆教育目標	社会の一員としてたくましく生き抜く人間性豊かな生徒の育成をめざし、以下の目標を掲げる。 ○人権尊重の精神と態度を育てる。 ○豊かな情操と健全な心身を育てる。 ○自主性を伸ばし創造性を育てる。 ○自ら進んで学ぶ態度を育てる
◆学校規模	生徒数495名、学級数14学級
◆本校特色	○地域行事・ボランティア活動参加(新井宿福祉園運動交流会、ガーデンパーティ、日赤フェスタ、ユニバーサル駅伝伴走、新井宿児童館親子デー、自治会連合運動会、山王三・四丁目自治会子どもまつり・防災祭、入二小フェスタなど) ○生徒会や各種委員会を中心とした生徒主体の活動(生徒会朝礼、SNS学校ルール策定、いじめ撲滅運動、学校行事や学年行事での実行委員会組織による企画・運営など) ○スクールサポート三中(学校支援地域本部)を中心とした学校・地域協働体制による充実した教育活動の展開(図書室ボランティア、職業講話講師、職場体験受入先、土曜補習教室講師、部活動支援、英語検定、漢字検定試験監督、ガーデニング)

## ○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	取組	今年度	成果	これまでの取組及び今後の改善策	学校関係者			
				評価	昨年度	評価		評価	コメント		
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化に対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成を図っている。 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	未来社会を創造的に生きる子どもの育成において外国語教育指導員、ICTの活用、人権教育の推進に向けた取組では良い評価が出た。ICT活用に関しては、すべての教員が研修を経て機材を使いこなすようになった。また道徳の授業を通して人権教育を学年でどのように進捗させるか相談しながら行うことができている。今年度はコロナに関する差別や運動会で失敗をした時にどのようにふるまうかなど時期に合った指導ができた。体力に関しても引き続き健康な体作りを推進していく。ALTを活用した授業や休み時間に行う英語カフェを設定し外国の方とのコミュニケーション能力の育成を図った。自分の考えを発表する機会を工夫しながら可能か場面で実施した。体力面ではマスクを外してできることが限られ、十分に体力の向上に向けた取り組みができなかった。コロナの状況を踏まえながら、今後よりコミュニケーションをとりながら問題解決が図れるような授業を実施する必要がある。	A	9	コメント ・コミュニケーション能力や情報活用能力は、社会で生きていくうえで基礎となる能力ですので、引き続き取り組みを推進していただければと思います。 ・今年度はコロナ禍での授業について工夫が必要とされる中、可能な限り学力の定着や体力づくりへの取組ができてきているように感じています。 ・外国語教育指導員を効果的に活用できている。 ・コロナ禍だからこそ学ぶことも多いと思います。難しいとは思いますが、工夫して生徒の育成を図ってください。 ・道徳の授業による生徒の育成が響くように伝わりました。運動会では皆さん立派に指導を守っていました。 ・コロナ禍の中、いよいよ一人1台のタブレット端末配備となります。ICTを活用した教育活動に期待します。幸い本校は感染症が出ていませんが濃厚接触で出席停止となった場合の学びの保障への備えをお願いします。 ・コロナの影響で授業日数の激減や行事が中止となる中、学校はあらゆる工夫と努力で生徒のことを一番に考えた授業を展開していると思います。	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	3	B					1
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	C					0
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	D					0
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 基礎的な学習内容を確実に定着させるための、精選した課題を与えて家庭学習時間の増加を促す。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4	4	三者面談時に学習カルテを配付し、学習カウンセリングを実施した。区学習効果測定や教科評定及び数学チェックシート等を資料として個に応じたアドバイスを行っている。生徒への「宿題や提出物を必ず出し、忘れ物をしない」では86%できていると回答がある。しかし、保護者の回答は62%と生徒と大きな隔りがある。宿題や提出物を必ず出し、忘れ物をしないよう気をつけている生徒は85%となっている。 学習効果測定の全校平均正答率は前年より1.7%上昇し62.6%となり、今年度の目標である60%を上回った。今年度も授業改善に向けた研修と家庭学習習慣定着に向けた取組を継続し、基礎・基本的学力のさらなる定着を図る。	A	9	コメント ・学校が再開された後、例年以上のスピードで授業を進められたかと思えます。そうした中で生徒たちへのフォローや家庭学習習慣の定着の促進などは重要ですので、引き続き取り組みを進めていただければと思います。 ・学校や家庭において基礎的な学習面の学力が定着するように努めていきます。 ・全国平均正答率の上昇が評価できる。 ・自律、自己管理を身につける機会を作っていたと思います。 ・コロナによる手洗いや密を避けること。体温の計測報告など身に付けて同時に提出物への意識が向上したように感じます。 ・3月から5月の臨時休業による学習の遅れをどの程度取り戻せたか、取り戻すためにどのような工夫をしたのかお伺いします。 ・生徒によりリモート職業講話の授業は素晴らしいかったです。	
			4:学期に2〜3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	3	B					1
			4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4	4	C					0
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	D					0
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 不登校出現の未然防止を図るとともに、不登校問題に係る取組を実施し不登校傾向を示す生徒の学校復帰率を伸ばす。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4	4	Hyper-Q-Uで「勉強や運動等で友人から認められていると思う。」での肯定的な回答が80%以上 3:Hyper-Q-Uで「勉強や運動等で友人から認められていると思う。」での肯定的な回答が60%以上 2:Hyper-Q-Uで「勉強や運動等で友人から認められていると思う。」での肯定的な回答が60%未満 1:Hyper-Q-Uで「勉強や運動等で友人から認められていると思う。」での肯定的な回答が40%未満	A	9	コメント ・不登校生徒の出現率は昨年度より増加したとことで、不登校の未然防止にさらに務めていただければと思います。 ・コロナ禍、学校行事に参加の機会が減少。しかし挨拶に関しては大人がする100%に近い子供が返して来ます。小中一貫教育と先生方の指導の賜物と思っています。学校は楽しいと子ども達に「フイロ、ガヤガヤ、おしゃべり」も早く元に戻ってほしい。 ・不登校問題について毎月の支援会議や、ケース会議を行い、学校復帰に向けて各関係機関とも連携してしっかりと取組ができていると感じます。 ・不登校生徒が減少した点が評価できる。大人も予想できない世の中の変化の中で、生徒たちは振り回されることもなく、自己形成していただけたと思います。 ・目標をベースとした生徒への指導の様子など学校へ向けていくことにより触れられる子どもが安心して任せることができました。 ・週1〜2回通学路でのあいさつと立っているが、多くの生徒があいさつをしてくれました。規範意識が読み取れる1コマです。 ・不登校支援会議は毎月実施し一人一人に向き合い地域や学校が一体となって取り組んでいる。確実に成果につながっていると思います。	
			4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	B					1
			4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	C					0
			4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	D					0
プラン4 スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、健康増進を図る意識の向上をめざします。	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4	4	生徒の81%が「継続的な運動を通して基礎体力が向上した」と肯定的に回答した。昨年度と同じ数値となった。中学校の教員特性として教科担任制ゆえに、運動会以外では全ての教員が体育的指導に携わることにつながっていない。今年度は運動会を11月に実施できない、生徒にとっては運動の大切さを知った行事となった。今後とも基本的な生活習慣の定着・促進とともに、補強トレーニングや一校一組に全教員が関わることを通してさらなる健康・体力向上を図る。	A	7	コメント ・11月に開催された運動会を見学させていただきました。今年度初めての全校生徒そろっての行事であったこと、楽しそうに競技を行う生徒たちの姿が印象に残っています。 ・放課後、運動部の学校周辺の走り込み、支の子のけいけんを聞いて元気な声援を聞ける人から聞き取りたいと思います。 ・元気に明るく声を上げていたこと感謝です。 ・コロナ禍で体力向上を目指すことは難しいと思いますが、全校一斉に実施できたことはとても良かったと思います。 ・運動会を実施したことが評価できる。 ・多くの機会を失っていると思いますが、先生、生徒とも工夫を凝らして改善できるようにしていきたいです。 ・運動会を拝見し、スポーツの大切さ、仲間と競うことの楽しさなど改めて実感をもたしました。 ・運動会が延期する年度も立ていっしょに、コロナ禍による自粛生活で、生徒の体力が落ちていっしょに、学校での運動の機会確保の重要性が増していると思います。	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	B					3
			4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4	C					0
			4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4	D					0
プラン5 児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と質的な教育環境をつくります。	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と質的な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	4	「わかりやすい授業が多く満足している」という回答が昨年より8.5ポイントアップしているのは大きな成果であると思います。 ・授業公開のタイミングなどについては印象的でした。勉強が楽しくなりました。 ・生徒全員が前向きに授業に取り組む、土曜補習教室も積極的に参加が見られました。さらに研修の満足度が向上を期待しています。 ・「わかりやすい授業は楽しく実習したい」と思えるようになり、家で家族へ教えたり、質問をしていくようになりました。 ・社会のデジタル化が進み、ネットを通じて様々な情報に触れる環境となる中、自分の生きる社会にリアリティを感じられるよう、実体験やキャリア教育の充実にも努めてまいります。	A	10	コメント ・「わかりやすい授業が多く満足している」という回答が昨年より8.5ポイントアップしているのは大きな成果であると思います。 ・授業公開のタイミングなどについては印象的でした。勉強が楽しくなりました。 ・生徒全員が前向きに授業に取り組む、土曜補習教室も積極的に参加が見られました。さらに研修の満足度が向上を期待しています。 ・「わかりやすい授業は楽しく実習したい」と思えるようになり、家で家族へ教えたり、質問をしていくようになりました。 ・社会のデジタル化が進み、ネットを通じて様々な情報に触れる環境となる中、自分の生きる社会にリアリティを感じられるよう、実体験やキャリア教育の充実にも努めてまいります。	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	B					0
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	C					0
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	D					0
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の受容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。 生徒がJRCだけでなく様々なボランティア活動に参加するよう促す。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2〜3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4	4	学校支援地域本部と緊密な協力体制を構築し、今年度も活用をとおして放課後に2名および土曜日5名の学習指導講師を手配し、個の習熟の程度に応じた手厚い補習教室を実施することができ、土曜補習教室へのべ参加生徒数は190名程度である。今年度はボランティア活動は実施できなかった。各学年の職業講話など地域の力を紹介していただくなど、地域力を生かした教育環境整備を図るとともに、PTAや地域教育連絡協議会・学校支援地域本部との連携をさらに深めていく。 「学校は教育活動の様子をよく伝えている」と肯定的な回答が86%と昨年度から7ポイント減少となった。しかし、「学校からの配布物等が保護者にはわたっていない。」への肯定的回答は昨年度比-8%となり、配布物に対する生徒への指導が必要な結果となった。家庭の意識改革を啓発するために、今後も生徒指導を通して学校からの情報が確実に家庭に届く方策を行っている。	A	8	コメント ・地域力を生かした教育環境整備などにつきましては引き続き特別出席者も協力させていただきたく考えております。 ・この一年、三中の先生方の子どもたち含め姿勢に感動しております。少しでもお役に立ちたいと思います。 ・学校支援地域本部の支援体制は学校の要望に応じて活動しています。様々な人たちの関わりが中学生活を支えています。その授業に生かされる地域の人材を、学校の希望に沿った授業になるように調整して今後も連携を深めていきたいと思います。 ・補習教室の実施が評価されています。連携の難し、機材も減少してしまっているのが残念でした。コミュニティスクールのモデル校となる次年度、地域とより一歩の協力関係を構築できればと思います。 ・コロナによりすべての地域行事が中止になったため生徒がボランティア参加できないのは仕方ないと思っております。スクールサポートは学校の要望に全面的に応え協力できていると思います。	
			4:月1回以上更新した。 3:学期1回以上更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	3	3	B					2
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	C					0
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4	D					0